



表具師

木南拓也

K I N A M I T A K U Y A

京 TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 108th person

【プロフィール】71年京都府生まれ。大学を卒業後サラリーマンを経験するも、'97年4月に安達表具店の三代目として家業を継ぐ決意をする。昔から古着が好きで、作業中も専ら古着。取材当日は、着物地シャツにLevi's 501の66モデル【表具師とは…】紙・布・糊を使って、襖や障子、屏風、掛軸などを作り上げる職人。いわば、和室の装飾を一手に手掛ける人々。とりわけ京都の表具は「京表具」と区別され、国内外から高い評価を受けており、一種のブランドである

イヤだと抗いながらも父の背中を追っていた



刷毛は紙の材質ごとに使い分ける。出刃包丁は木枠を削ったり、紙を切るときなど重宝。使い込まれた愛用の品々



昔は住み込みで10人ほどの職人をかかっていたという。現在は木南さんと、75歳、50歳のベテランが工房に立つ



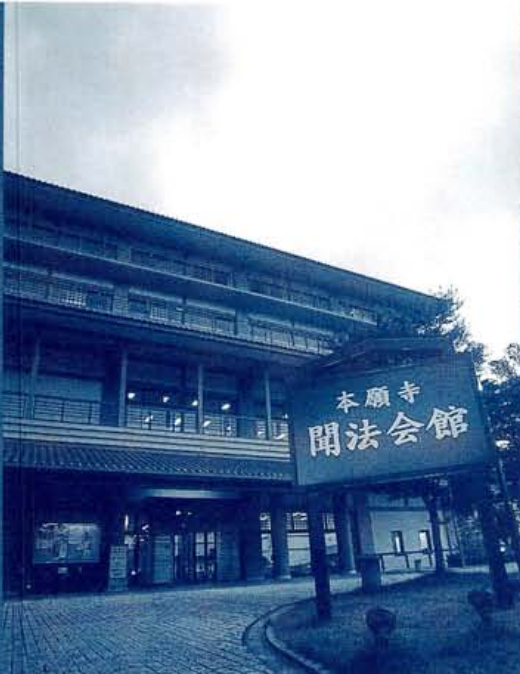
名料亭「西陣魚新」の廊下にある天井絵と1階広間の金の雲海（襖紙は鳥の子紙）が施された襖。天井絵は日本画家・加藤英代三氏の作品を円く切り抜くには勇氣がいったとか

真夏日というのに、ちょうどその日は台風の中休みで、始終涼しい風に晒されていた。ところが工房の中に入ると、もわっと熱気をはらんだ糊の臭いが立ち込めている。窓がビシヤリと閉じられ、空気が全く動かない。かといって、扇風機やクーラーの姿はどこにもない。「ほら、糊が乾いちゃうから付けられないんですよ」と、木南さん。真夏日の殺人的な気温と湿度を想像すると、ここでの作業は閉口せざるをえなかった。

最初は表具師になつてなろうと思わなかった。幼い頃から昼夜を徹して働く父の姿を見るにつけ、「なんでこんなエライ目せなあかんねん。僕は絶対かかん、僕は絶対ならんとこって思っていました」。大学を卒業後、スポーツ用品専門の小売店に就職し、サラリーマンとなった息子を前に、父は、「別にお前に継いでもらわんでええ。継ぐ奴なんていくらでもおると、どこまでも強硬だった。昔気質の職人で、頑固を絵に描いたようだった父。毎日毎日汗にまみれ、一日に2回も着替えていた父。そんな父が目と足を患って、少し弱気な態度を見せたとき、木南さんは胸のうずきを覚えずにはいらなかった。「親父の弱気な姿で今まで見たことないんです。小さい頃から慣れ親しんだ工房で、糊の臭いを嗅ぎながら仕事するのも悪いなと、その時決心したんです」。

職人の世界では、弟子は師の背中を見て技を盗むもの。誰も手取り足取り教えてくれなどしない。それは血の繋がった親子とて同じことである。工房の隅のパイプ椅子にどっかりと腰を下ろし、父は息子の作業に鋭い眼光を走らせる。「ほら、襖が反ってきてるやないか」。失敗は後から指摘され、たとえ途中で気付いても救いの手が差し伸べられることはない。

「襖5年に表具10年」。この世界に飛び込んで6年目になる木南さんだが、まだまだ一人前の域ではないと謙遜する。しかし、洛西の法金剛院、明治の公家にゆかりをもつ梨木神社の障子・襖を手掛けた実績は、確かな腕を物語る。「伝統の技をきっちり受け継いでいくことは大事です。でも、現代人の住空間から和室が消えつつあるのも事実。これからは、モダンな色彩感覚やデザインを取り入れた『フローリングに合う襖』も考えていかなあかんと思いますね」。今年で32歳。若さと可能性を内に秘めた3代目は、表具師の21世紀を見つめている。それは、時代にそっと寄り添った伝統工芸の未来である。



古都の歴史を今に生きる古寺に抱かれた寛ぎの宿

「お西さん」の名で親しまれる西本願寺の懐に抱かれる本願寺聞法会館は、ゆったりと寛げる和・洋室や大浴場、レストランなどを取り揃え、心と体を癒す種やかなひと時をお約束いたします。早朝の境内散策、心静かに法話の聴聞など、当館でこそ触れられる古都の文化もきつと思いの出のページになることでしょうか。観光、ビジネスを問わず、安らぎを求めるすべてのお客様を心からお待ちしております。



もんぼう かいかん
本願寺 聞法会館

京都市下京区堀川通り花屋町上ル (西本願寺北隣)
電話 075・342・1122
駐車場 200台

<http://www2.hongwanji.or.jp/monbou/>

【宿泊料金】
素泊り8000円 1泊朝食付7000円 1泊2食付9000円～
【アクセス】

JR京都駅より●徒歩約15分 ●タクシー約5分
●市バス9、28、75系統「西本願寺前」下車徒歩3分

Information

■安達表具店■
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町513
075-841-5923
8:00～18:00/日休
<http://www12.ocn.ne.jp/~bootsy/index.htm>